

地方創生交付金関連事業評価シート

資料 5

No.	交付対象事業の名称	交付金の種類	事業目的及び事業概要	これまでの取組内容及び評価	課題及び今後の方針	令和元年度事業費(単位：千円)			本事業における重要業績評価指標（KPI）				担当部署名
						内訳(具体的な内容)	予算額	決算額	指標名	基準値 (事業開始時)	実績値 (最新の値)	目標値 (令和元年度)	
1	文化財の国際的展開を通じた奈良の国際ブランド力最大化プロジェクト	地方創生推進交付金	日仏友好160周年である2018年にフランスで大規模な日本文化紹介行事「ジャポニスム2018」が官民挙げて実施される。これに奈良県とともに参画し、奈良の伝統行事等の出展等を行い、また、令和2年度までの3年計画で、歴史文化への造詣が深い層や富裕層等を中心に一層の奈良への関心を喚起し、2020年東京五輪の開催も見据えつつ、奈良の歴史文化資源等の魅力を世界に向けて強力に発信し、滞在・周遊型観光の促進を図る。	【H30年度】 奈良市は平成30年10月20日から22日にアクリマタシオン公園で開催された公式企画「『地方の魅力』―祭りと文化―」に於いて、奈良県と共同して「春日若宮おん祭」の「お渡り式」を再現及びバリ日本文化会館で開催された講演会を実施した。 また、フランスの旅行会社等に対しプロモーション活動を実施し、奈良の歴史文化資源等の魅力を発信した。 【R1年度】 H30年度に実施したフランス現地でのプロモーションにより奈良の認知度が向上したことを受け、吉野町と連携し、3月にフランスのメディアやエージェント等を招聘するファムトリップ事業を実施する予定だった。しかし、奈良県内において新型コロナウイルスが発生したことを受け事業は急遽中止となった。	R1年度のファムトリップ事業の中止が無ければ、これまでの取組みを踏まえ、東京オリンピック・パラリンピックを契機として増加することが予想される訪日外国人客に対し、奈良市まで誘導するようなプロモーションを実施する予定であった。 新型コロナウイルス感染症により、暫くは訪日旅行者が見込めない中、終息後に奈良市へ誘客出来るような対仏プロモーションを洗い直し、①冊子作成②動画配信③在日フランス人インフルエンサーを両市町へ招待しての情報発信、の③案で、吉野町と連携し実施予定。	委託業者への補償金（キャンセル料）	4,000	1,862	奈良市の外国人宿泊客数	25.2万人	44.3万人	51.0万人	観光経済部 観光戦略課
2	奈良市ベンチャーエコシステム推進事業	地方創生推進交付金	「奈良市ベンチャーエコシステム」を構築し、市内の産業に好影響を与え、地域経済の起爆剤となる創業者の持続的な創出により魅力的な事業所の集積を図ることで、若者に対し市内における「しごと」の多様な選択肢を提示し、県外流出の解消をめざす。そのために、以下の事業に取り組む。 （1）創業支援施設機能強化整備（ハード） 創業支援施設を起業家等を中心に多様な人材が集まり、交流し、地域資源を活用したイノベーションを創出できる空間とするため、民間事業者から提案を募り、そのノウハウを活用してスピード感をもってハード面の機能強化整備を行う。 （2）創業支援施設における事業（ソフト） 市のパートナーとなる事業者を公募し、コワーキングスペースなど機能強化整備された空間を有効活用しながら、当該施設の機能を充実させ、各事業で起業家等を生み、育てるための循環した事業を展開していく。また、事業者には当該施設の存在価値を高め、安定的な集客性と収益性を生むことにより、将来的には公的な支援に頼らない基盤の構築を求めている。 （3）創業支援機関との連携強化（ソフト） 経済団体や金融機関などの創業支援機関を対象とした研修実施や創業支援アドバイザーを派遣することに加え、各支援機関が実施する事業に対し、市としても積極的に関わっていくことで連携強化を図り、総合的な創業支援体制を構築する。 （4）創業支援プロジェクト（ソフト） 「奈良市ベンチャーエコシステム」の構築を加速化させるための具体的なプログラムとして、学生に本市産業への関心を高めるためや若者に都心部からのUターンを促すための「創業機運醸成プロジェクト」や、若者が憧れ、その姿をめざすような起業家を育成する「成長志向起業家(経営者)育成プロジェクト」を支援機関と連携しながら継続実施していくことで、循環のスタートとゴールを確実なものとしていく。	（1）創業支援施設機能強化整備（ハード） 令和元年度にハード整備を実施。1階はショップ型インキュベーション施設から、カフェ、ショップ、本屋、イベントスペース、シェアキッチン等が一体となった複合空間とした。2階はコワーキングスペースという機能は同じだが、デザイン性を高め、自然にコミュニケーションが取れるよう中央に大きく長い机を配置。 （2）創業支援施設における事業（ソフト） パートナーとなる運営事業者をプロポーサルにて選定し、機能強化した施設、空間を有効利用した施設運営を実施。コワーキングスペースの会員数や、イベント実施における学生参加数などに成果が出ている。コロナ禍の影響により、オープニングイベントの実施ができず、事業実施数のKPIに影響が出ているが、2年目以降の事業の在り方等を含め改善、検討をしていく。 （3）創業支援機関との連携強化（ソフト） 奈良商工会議所にアドバイザーを派遣し、創業支援塾を実施した。実施時期を他の支援施設の実施時期とずらすことで、参加者を増やすことに成功したほか、次年度以降の創業支援塾のあり方についても新たな改善を加えていく。 （4）創業支援プロジェクト（ソフト） Nara Star Projectを実施。第3期生として3名の受講生がプロジェクトに参加。（募集をかけるプレイベントでは55名が参加）また、3期からは、対象者を経営経験のある成長志向の起業家として実施しており、成長した起業家が新たな起業家を育てることを意図した取り組みとして実施している。	コロナ禍による影響により、社会環境や、地域経済環境が大きく変わっており、コロナを意識した取り組みを実施していく必要がある。 創業支援施設における事業（ソフト）では、人を集めてイベントを実施することが難しいため、オンラインでの創業機運醸成（具体的には対象をしぼり、奈良の良さをアピールする）動画の配信や、企業と組み探索型のリビングラボを実施することで、限られた機会の中で成果につなげられるように実施していく。 創業支援機関との連携では、引き続き商工会議所へ派遣したアドバイザーに、今年度から創業支援施設で、相談窓口を隔週土曜に実施してもらう他、創業支援塾の開催方法として座学のみではなくアフターフォローを意識した授業を実施予定であり、創業支援施設と商工会議所の連携をより深められるように努める。 創業支援プロジェクトでは第4期生を募集し、コロナ禍においても実施可能な方法で取組を進めていく。	①商工会議所等への支援（研修、アドバイザー派遣） ②創業支援施設の機能強化整備（ハード整備） ③創業支援事業、成長志向起業家育成プロジェクト等（ソフト事業） ④事務経費	2,345 28,000 20,625 86	1,975 28,000 20,625 85	創業者数（人／年） 創業支援拠点施設における起業家等及び関係人口を対象とした事業実施数（奈良市事業分を除く）（事業／年） コワーキングスペース会員数（人／年） 創業関係学生人口（創業機運醸成に係る事業参加者数）（人／年）	97 (H29年) 0 9 0 (H30年)	134 4 4 17	100 7 1 0	観光経済部 産業政策課